

授業研究会 活動報告

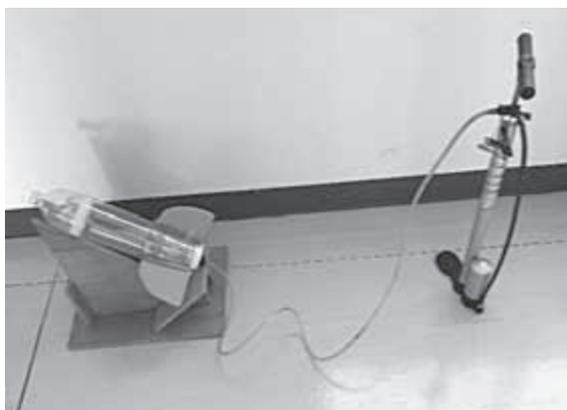
高橋 俊 二

1 授業研究会について

授業研究会は、幼稚園や小学校で授業をする際の指導技術を学びたい学生の研究会である。授業づくりに積極的に取り組むために、理科の実験教材となる「ペットボトルロケット」の製作や飛ばす実験は、この研究会の伝統となっている。飛ばす実験では、改良に改良を重ねたロケットでは、ゆうに80mは飛ばすことができる。その他にも、水風船を作ったり、シャボン玉の液を台所洗剤・合成洗濯のり・水の配合を考え、より割れないシャボン玉づくりに挑戦したりした。生活科に役立つ動くおもちゃづくりや算数の教材づくりも行った。

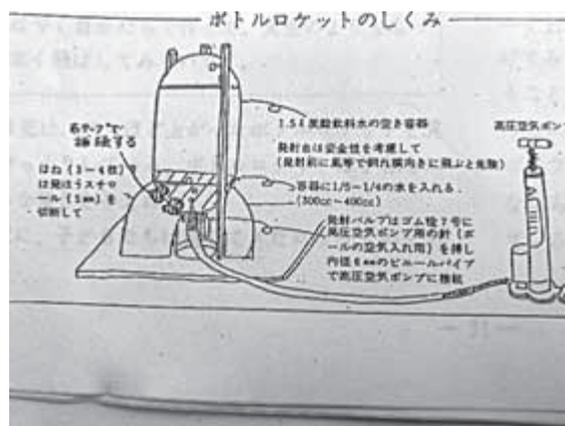
2 「ペットボトルロケット」の実験

「ペットボトルロケット」は、別府大学短期大学部初等教育科元教授の三浦清先生が大分県で初めて小学校3年生理科「水と空気」授業の教材として使い、水と空気の間接関係を考えながら、ペットボトルロケットを子どもたちと打ち上げた。



ペットボトルロケットの実物

「ペットボトルロケット」は、炭酸飲料水等の空き容器(ペットボトル)の中に少量の水を入れ、空気ポンプで空気を押し込み、押し縮められた空気が元に戻ろうとする力でゴム栓がはずれ水が噴射される。その反作用で、ロケットが高く上がるおもちゃである。外から高压空気ポンプで多量の空気を押し込むので、強い推進力が得られ、子どもでも40mの高さまで上げることができる。



ペットボトルロケットのしくみ

3 ふくろう学級

令和元年度地域教育力活性化事業「放課後学習ひろば(ふくろう学級)」に学習ボランティアとして参加している。別府市立上人小学校で、放課後の午後3時10分から午後4時まで、4年生約40名に、学生がつくったプリントの丸つけや宿題のサポートをしている。

第1・第3水曜日に行われるが、子どもたちは、いつも心待ちにしている。学生も2年生であるため、現場での実践に役立つと積極的に参加している。

実施日:11月20日、12月4日・18日、1月15日、
2月5日・19日、3月4日



ふくろう学級

4 わくわくフェスティバル

平成30年度のわくわくフェスティバルでは、
ぶんぶんゴマづくりを行った。子どもたちは、
色をつけたり、シールを貼ったりして、自分だ
けのぶんぶんゴマをつくり、いつまでも楽しそ
うに回していた。

5 小学校での自主学習ボランティア

1年生の学生12名が、小学校で自主ボラン
ティアをしたいという要望があり、急きょ授業
研究会に入ってもらうことにした。別府市教育
委員会や別府市内の小学校の校長先生のご厚意
で実現することができた。学生は観察実習を
行った小学校で、学習ボランティアを行う。学
習ボランティアでは、授業の補助・教材作成の
補助、清掃活動の補助等を行う。

実施日:3月3日・10日・17日・24日の4日間
である。

新型コロナウイルスの発生により、小学校が
休校となり実施できなかったことが残念であ
る。

6 クリスマスのリースづくり



大分市の野田カームタウン子ども会の
子どもたちとのリースづくり



しっかりと作り方を教えている



7 今後の課題

ごく少人数の研究会である。現2年生も1年
生の勧誘に努力したが、現在1年生は、0の状
態である。小学校の自主学習ボランティアに行
く1年生が何名か残ってくれることを期待した
い。